

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.7
Q1 室内環境					0.39	2.7
1	音環境			3.0	0.15	3.0
	1.1 室内騒音レベル	—		3.0	0.40	
	1.2 遮音			3.0	0.40	
	1 開口部遮音性能	—		3.0	0.60	
	2 界壁遮音性能	—		3.0	0.40	
	3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—		-	-	
	4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—		-	-	
	1.3 吸音	—		3.0	0.20	
2	温熱環境			2.5	0.35	2.5
	2.1 室温制御			2.5	0.50	
	1 室温	—		3.0	0.38	
	2 外皮性能	—		1.0	0.25	
	3 ゾーン別制御性	—		3.0	0.38	
	2.2 湿度制御	—		2.0	0.20	
	2.3 空調方式	—		3.0	0.30	
3	光・視環境			2.4	0.25	2.4
	3.1 昼光利用			3.0	0.30	
	1 昼光率	—		3.0	0.60	
	2 方位別開口	—		-	-	
	3 昼光利用設備	—		3.0	0.40	
	3.2 グレア対策			1.0	0.30	
	1 昼光制御	—		1.0	1.00	
	3.3 照度	—		3.0	0.15	
	3.4 照明制御	—		3.0	0.25	
4	空気質環境			3.3	0.25	3.3
	4.1 発生源対策			4.0	0.50	
	1 化学汚染物質	建築材料は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用。		4.0	1.00	
	4.2 換気			3.0	0.30	
	1 換気量	建築基準法および建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍。		4.0	0.33	
	2 自然換気性能	自然換気開口面積が居室面積の1/20をクリアするように計画している。		4.0	0.33	
	3 取り入れ外気への配慮	—		1.0	0.33	
	4.3 運用管理			2.0	0.20	
	1 CO ₂ の監視	—		1.0	0.50	
	2 喫煙の制御	—		3.0	0.50	
Q2 サービス性能				—	0.30	2.9
1	機能性			2.8	0.40	2.8
	1.1 機能性・使いやすさ			1.6	0.40	
	1 広さ・収納性	—		1.0	0.33	
	2 高度情報通信設備対応	—		1.0	0.33	
	3 バリアフリー計画	—		3.0	0.33	
	1.2 心理性・快適性			3.6	0.30	
	1 広さ感・景観	—		1.0	0.33	
	2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペースを確保し、自動販売機も設置。		5.0	0.33	
	3 内装計画	パースによる事前検証、機能やコンセプトに合わせた仕上の採用。		5.0	0.33	1.0
	1.3 維持管理			3.5	0.30	
	1 維持管理に配慮した設計	床面は、防汚性の高い床材を採用。一次扉から二次扉迄の距離を1m以上確保している。		4.0	0.50	
	2 維持管理用機能の確保	—		3.0	0.50	
2	耐用性・信頼性			3.6	0.30	3.6
	2.1 耐震・免震・制震・制振			3.8	0.50	
	1 耐震性(建物のこわれにくさ)	25%増の耐震性を有する。		4.0	0.80	
	2 免震・制震・制振性能	—		3.0	0.20	
	2.2 部品・部材の耐用年数			3.6	0.30	
	1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級2相当である。		4.0	0.20	
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—		3.0	0.20	
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	—		3.0	0.10	
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—		3.0	0.10	
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給湯SUS(C)、雑排水VP(B)、汚水排水VP(B)、Eは不使用。		5.0	0.20	
	6 主要設備機器の更新必要間隔	—		3.0	0.20	
	2.4 信頼性			3.2	0.20	
	1 空調・換気設備	—		3.0	0.20	
	2 給排水・衛生設備	—		3.0	0.20	
	3 電気設備	—		3.0	0.20	
	4 機械・配管支持方法	耐震クラスAとしている。		4.0	0.20	
	5 通信・情報設備	—		3.0	0.20	

3	対応性・更新性			2.3	0.30	-	-	2.3
	3.1 空間のゆとり			1.8	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	—	1.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	—	3.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		—	2.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.31	-	-	2.7
1	生物環境の保全と創出		—	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.0
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.0
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.72	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		BEI _m =0.71、LED照明設備も採用している。	2.4	0.50	-	-	2.4
	集合住宅以外の評価			2.4	1.00	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4	効率的運用			2.5	0.20	-	-	2.5
	集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	2.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	2.6
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	自動水栓に加えて、節水型便器も採用している。	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60	-	-	2.5
	2.1	材料使用量の削減	—	2.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	1.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	3.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	—	3.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			2.3	0.20	-	-	2.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			2.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	—	1.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮		LCCO ₂ 排出率=79%	3.8	0.33	-	-	3.8
2	地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
	2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	污水处理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	適切な量の駐輪場及び駐車場を確保し、荷捌き用車両(搬入車)の駐車場も確保している。周辺道路の渋滞緩和対策として、車両出入口は、IN・OUTをそれぞれ専用としている。	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	0.33	-	-	
	2	振動	—	3.0	0.33	-	-	
	3	悪臭	—	3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	1.0	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策チェックリストの過半を満たし、広告物照明は行っていない。	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	－	○	○	○	○			－						
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0		○	○	○	○	○		－		－	○	○		－
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0		○	○		○		－	－	○		○		○	－
2.4.1 空調・換気設備	3.0		○	－	○	○	○								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	－	－	－	－	－	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	－	－	○	－	－							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		－	－	○	○	－	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	5.0		－	－	1.0	－	－	1.0	1.0	－	1.0	1.0	－		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	－	－	－	－							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		－	－	－	1.0	－	1.0	－	－					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		2.0	2.0	1.0	1.0	－	－	－	－	－				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			－	－	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	－		－	－	－										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－	－								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	－		－	－	－	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	－														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		－	－	3.0	2.0	2.0	－	－	－	1.0	－			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	－	1.0	1.0	1.0	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	1.0	－		－	－						
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.8	窓の日射熱取得率(η)	0.0
U値(W/m2K)	窓システム 0.8	屋根	0.2
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	－
屋光率	1.7%	η AC	－
自然換気有効開口面積率	0.0%	η AH	－

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	4.8㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	11.5 VA/㎡					
天井高	2.6 m					
リフレッシュスペース	54.0%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	65 年					
想定必要間隔	15 年					
想定必要間隔	10 年					
想定必要間隔	15 年					
階高	3.21 m					
壁長さ比率	37.0%					
床荷重	1800 N/m2					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	19%	建物緑化指数	0%
空地率	67%	水平投影面積率	16%
地表面対策面積率	15%	舗装面積率	46%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	0.72	断熱等性能等級	対象外 相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%
		採光を満たす住戸数	0.0%
		通風を満たす教室数	0.0%
		通風を満たす住戸数	0.0%
		太陽光	.0kW
		太陽熱等	.0kW
		蓄電池	.0kW
BEI/BEI _m	再エネ有	0.71	無
一次エネ削減率	再エネ有	無	

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%					
特定調達品目	－	エコマーク商品	－	自治体指定の特定品目等	－	
使用比率	0.0%					
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)				
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)				
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	8			

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	39%	隣棟間隔指標R _w	0.41
地表面対策面積率	41.2%	屋根面対策面積率	0.0%
外壁面対策面積率	0.0%	基準高さH _b	13 m
見付面積S _b	362㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	71.259 m
緑地	230㎡	水面	㎡
保水性対策面	481㎡	高反射対策面	㎡
再帰性反射対策面	㎡		